

SSKP はれのちくもり

棕櫚亭通信 第69号



分場トゥリニテが国立に移転します

就労移行支援事業所ピアスの分場として活動していたトゥリニテが、この3月に国立へ移転することになりました。これまで立川市内の事業所として22年間余にわたって行政を始め関係機関のみなさま、建物を貸して下さった大家様、地域の皆様には本当にお世話になりました。

トゥリニテは昨年7月にレストランとしての役割を終え、「ワークサンプル」という事務の基礎部門のトレーニングを提供してきました。そしてこの半年あまりの取り組みの中から、従来のピアスとは違う形の就労支援の方向性が見えてきました。例え



ピアス・新分場のようす

ば、ピアスで何種類ものトレーニングを組み合わせると混乱してしまうという方でも、教材を使ったワークサンプルでは、落ち着いてチェックや報連相などに取り組むことが出来るようになり、トレーニングが進む例が増えてきたのです。また、トレーニングだけではなく、ピアスの体験利用やオープナー登録者のアセスメント（就労の方向性の見立て）としても提供し始めた結果、その方の作業上の特性や通所に関わる体力などが早めにわかるようになったり、転職等を考えているオープナー登録者の方にも、検討の材料となる場を提供することが出来るようになりました。

このように、ワークサンプルを中心に据えた分場の機能が見えてくれば来るほど、現在の場所では行いにくくなり、立川市内はもちろんのこと、府中・国立地域で移転先を探してきました。探し始めて分かったことですが、ここ数年間でピアスのような福祉施設を取り巻く状況は変わってきていて、一方では規制緩和、そして一方では施設の入っている建物そのものに対する建築基準法上の条件が厳しくなっています。ピアスの場合も、どこでやりたいかで探し始めたものが、行政や不動産屋さんを通じた大家さんとのやり取りの中で、いつしかどの建物なら許可が下りるかに変わらざるを得なくなってきました。



今回は、このような現実的な建物基準に合わせた点と、助け合いのしやすい職員体制という点で、なんと国立ピアスの近所！に移転先が決まりました。今後は、引き続きワークサンプルを中心に置きながら、コミュニケーションに関するプログラムを充実させるなど、少しずつ新しい形の就労支援を発展させていく予定です。

これまで棕櫚亭Ⅱ・Ⅲ時代を含め、長く立川で活動させていただいた思い出もたくさんありますし、立川に拠点がなくなることは寂しくもあり、複雑な思いも感じています。特に立川は精神病院が多く点在する西多摩の入口でもあったので、トゥリニテ（古くは棕櫚亭ⅡやⅢ）が法人にとって地域を考える時の原点の1つでもあったからです。私自身もお店のごみ問題や自治会のお祭りから始まり、同じような志を持つ施設職員同士の集まりから地域のことや、必要な社会資源のことを考える土台をたくさんもらいました。また大家さんからは大規模な改修工事を始め、ご自宅でおしゃべりさせていただいた思い出もよみがえります。



この数年間「福祉を経営する」という大きな国の流れの中で、ピアスもまだ安定した運営までたどり着いてはおりません。そのこともあり、この数年間は地域に積極的にかかわっていく事もなかなかできない部分が大きかったかと思えます。しかしいつまでもそうはいつていられません。社会福祉法人の地域貢献もクローズアップされてきています。地域は移りますが、すぐお隣ですので、これからも立川を始め多摩地域での地域づくりや連携に力を入れていきたいと思えます。どうぞこれからもよろしくお願い致します。

（ピアス施設長 高橋しのぶ）

多摩棕櫚亭協会 事業所の紹介

ピアス（+ 新分場 ピアスⅡ）

就労を希望されるかたに向け、2年間の利用期間で職業準備性を身につけるためのサービスを提供します。

【基礎トレーニング】

オリエンテーション・各トレーニング部門への段階的参加・就労相談など

【実践的トレーニング】

- ・就労トレーニング 弁当宅配・環境整備・事務補助・ワークサンプルによる事務作業
- ・就労プログラム 面接練習や病気の理解など、知識や就職に向けての心構えを学ぶプログラム

【チャレンジ期～就職活動】

職場実習など外部へのチャレンジをしながら就労への準備を仕上げていきます。

【自立訓練（生活訓練）】

通所習慣の確立と職場体験のための軽作業を週5日提供。個別担当制による定期面接と、ピアスの体験プログラムを実施。

新分場 住所は以下になります。

〒186-0003

東京都国立市富士見台 1-17-24

アップスタイルビルⅡ 1F/2F

2/28（土） CES 報告会 ※前号にて日付に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

オープナー

障害をお持ちの方で、就業および就業上の生活支援を必要とされる方に継続的な相談や支援をしております。医療機関・障害者雇用をされる事業所の方からの相談も随時受け付けております。

【就労前支援】

今までの職歴や心配ごとをお聞きしながら、就職までのプランを一緒に考えていきます。必要に応じて、その方に合った支援を内部・外部機関と連携しながら検討していきます。

【求職活動の支援】

履歴書や職務経歴書作成支援・面接練習・ハローワークへの求職登録同行等の支援を行います。

【就職期の支援】

職場訪問・ジョブコーチ支援などを通じて安定して仕事が出来るための支援。定期面接・電話相談なども併せて行います。



■近況報告■ 「よいお年を～」とメンバーとあいさつしたのもついこの間と思っていたら、もうすぐ年度末です。今年度も当事者セミナーを開催し、8名もの働く当事者が会場参加者にメッセージを送りました。オープナー登録者数は192名、労働局と約束している就職者数の目標値達成まであと4名ですが、(幸い)求職中の登録者は8名です。機動力とチームワークで粘り強くがんばって行きます！『働きたいを働ける、に！』をキャッチフレーズに、社会人としてスタートを切るメンバーの幸せ実現のために今日もオープナーはサポートしていきます。

(オープナー施設長 山地圭子)

3/12（木） 多摩ネットワーク連絡会議（ハローワーク・タラント共催）

なびい

障害を抱えながら生活されているご本人・ご家族からのご相談をお受けしています。また、その方に必要な福祉サービスのご紹介や手続き支援・調整などを行います。

【相談支援事業】

- ・指定特定相談支援事業者・指定一般相談支援事業者
- ・相談支援事業 障害福祉サービス等利用計画作成／電話相談／面接相談／訪問・同行（医療機関・社会復帰施設・自宅等）

【地域活動支援センター I 型事業（国立市より受託）】

各種プログラム（料理、ヨガ教室、スポーツ、パソコンなど）／フリースペースの開放／通信発行／各種講座開催

■近況報告■ 2年前からバス停の目の前に事務所をかまえるなびいは、谷保駅からも近く、通りにも面していて来所しやすいと利用者さんや関係機関の方から好評です。

一日に10人前後の方々が面談に訪れるほか、フリースペースにも10～15人ほどの方々がすきな時間に来所され、本を読んだりおしゃべりしたり書きものをしたりと思い思いに過ごされています。みなさんにとって、にぎわいながらも穏やかで心落ち着く場所であればいいなと思いながら職員一同運営しています。

（なびい副施設長 伊藤）

棕櫚亭 I

ご自身の毎日の体調や気分を耳を傾けながら、ユニット活動や各種プログラムなどのグループ活動への参加を通して、仲間とともに自信を取り戻し、地域で元気に生活していくことを応援しています。

【ユニット活動】

昼食づくり・所内清掃・事務補助・公園清掃

【各種プログラム】

ウォーキング・スポーツ・絵画講座・IMR（リハビリと病気の自己管理についてのプログラム）など

【個別相談】

生活相談や、それぞれの利用目標や利用の仕方について定期的な面接も行っています。



新春恒例・初釜のお茶会より

■近況報告■ 棕櫚亭 I では、現在46名が在籍しています。

今年度前半には、Iでの何年間かの活動を通して、元気になり自信をつけた5名が、ピアスや就労継続B型へ移籍しました。そしてこの1年で新たに7名が登録し、再びにぎやかなIになっています。

イベントとしては、11月に『くにたち秋の市民まつり』へポップコーン屋として出店。みんなで調理・販売・呼び込みをしました。12月には少ない人数ながらも、東京都のスポーツ交流祭・バレーボール大会に出場し健闘しました。日々、仲間たちと、自分達でつくった昼食を食べたり、各種軽作業やプログラムを通じてコミュニケーションや自信をはぐくんでいます。

（棕櫚亭 I スタッフ 水島）

寄付のお礼につきまして

昨年、棕櫚亭の元職員である森内勝己さんより、30万円の寄付をいただきました。昨年秋に、退職して5年になる森内さんが遊びに来てくれたときは、棕櫚亭の利用者も職員も大喜びかつ大騒ぎでした。現在も遠方にお住まいでありながら、棕櫚亭を気にかけていてくれます。また今年度は、石川クリニックの石川義博先生からも30万円の寄付を頂きました。棕櫚亭創設時の未熟だった私達を導き、いまでも暖かく見守って下さっています。お二人をはじめとし、他の方々よりも多数の寄付をいただきました。この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

今回は石川先生が、40年も前に今の社会への警告になる大事な仕事をされていたことを改めてご紹介します。2013年2月に『永山則夫、封印された鑑定記録』という本が出版され、当時はNHKでも放映され話題になりました。19歳の連続殺人犯永山則夫の第二次精神鑑定を行ったのがなんと石川先生だったというのは知る人ぞ知る話です。1968年当時永山則夫は高度成長にひた走る日本の負の部分である貧困と、屈折した怒りから連続殺人犯となったと言われ、簡単な精神鑑定を経て死刑が確定しました。



二度目の鑑定依頼に大いに迷いながら、彼の生育暦に関心を持ち引き受けたとの事ですが、著者の堀川恵子さんというライターが100時間に及ぶ録音されたテープを起こし、先生と彼の真剣なやり取りを蘇らせました。カウンセリングを治療の基本にされる先生は、いつもの診療態度そのままに、じっくり話を聞き取り、背景や思いを語らせ、共感の姿勢を示します。幼児期の虐待が作り上げた心の闇によりそい、共感することで彼の情緒的なものの回復まで図ります。その後彼が獄中で出版し印税を被害者に送る、加害者でもあった母をいたわる手紙を書くというまでに成長したのも、先生の鑑定のおかげと今では大きく評価されています。つい最近も秋葉原事件の被害者が幼少時虐待を受けていたことが明らかになり、自殺願望と他者攻撃がない交ぜになる「寄り添なき状態の孤独」がやっと語られるようになりました。今の社会は更に家族を、個人を追い詰めてゆくので、同じ構造の事件は後を絶ちません。目を転じれば世界中に蔓延している悲劇の元も戦争で辛い境遇におかれた人達の復讐の意味合いを帯びた自他殺人のようです。貧困や格差問題と同時並行する虐待は深刻な問題だという社会全体の認識はやっと始まったばかりですが、40年も前の先生の永山鑑定は体を張っての大きな提起だったのです。私達もいつも先生に（当事者の話をじっくり聞きなさい）（彼らの物語を紡ぐ手伝いをしなさい）と教わって来ましたが、十分出来ているかどうかは心もとない限りです。

まだ読まれていない方はぜひご一読ください。

（理事長 天野聖子）

編集後記

今号では、なかなか紙面でお知らせできていなかった、各施設の概要と近況報告も合わせてお届けいたしました。棕櫚亭職員の顔や思いが、少しでも見える号になっていればと思います。来る春を待ちわびながら、あと少し寒い日を切り抜けていきますので、引き続きよろしくお願い致します。



【編集】 国立市富士見台 1-17-4 ピアス内

はれのちくもり編集委員会 Tel 042-575-5911

【発行】 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 世田谷区砧 6-26-21 Tel 03-3416-1698

【定価】 100 円